

南部中学校総括評価表 (No1)

令和元年度末

		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		次 年 度 へ の 課 題 と 今 後 の 改 善 方 策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価			学校関係者の意見	
1 学校運営	①教育目標・教育方針の教職員、生徒、保護者への周知徹底 ②教職員の資質の向上 ③保護者・地域への情報発信	評価指標	評価指標の達成度	A は 80 % 以上 B は 60 % 以上 C は 60 % 未満	総合評定 評価指標の達成度を平均 (評定) A	学年だより、保健だより、給食だよりを定期的に計11回発行するという積極的な情報発信の姿勢はよい。 メンター制を取り入れ、本校独自で発展させている研修を続けてほしい。 資質研修に取り組む教員の意識を大切に、若手教員を育ててほしい。	今後も行事や「たより」発行を通して、積極的な情報発信に努める。 本校独自で取り組むメンター制による資質向上研修を継承し、若手教員にもベテラン教員にも有益な校内研修を継続実施する。マンネリ化しない工夫を入れていく必要がある。 メールを利用して情報発信をする機会が今後も増えていく。保護者への情報発信の方法手段等について考えていく。
		① わかりやすいとする保護者 ② 資質向上に取り組んでいる教員 ③ 学校は情報発信しているとする保護者	① A ② A ③ A				
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) メンター制を取り入れた研修を継続発展させ、校内研修を活性化した。学年掲示物が充実し、来校者保護者への広報啓発になった。連絡メールでの発信が安定していてよく行き届いた。			
		① PTA 総会や学校行事等での教育目標・教育方針の説明・周知と各種たよりやHPの活用 ② 昨年度の調査研究事業の成果を取り入れた授業改善の取組 ③ 連絡メールやHP更新など迅速な情報発信	① PTA 総会と学校行事での説明と、各種たよりとHPを充実させ、周知と理解に努めた。 ②-1 メンター制を取り入れた校内研修を年6回実施 ②-2 板書の工夫や ICT 活用掲示物の工夫による授業等の取組の「みえる化」 ③ 緊急連絡気象警報発表時等に連絡メールを活用				
2 学力向上・教科指導	①学習意欲の向上と学習習慣の確立 ②授業力向上の工夫・充実 ③家庭学習の定着	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B	(所見) 基礎基本の定着に向けて継続して小テストを実施するなど様々な取組が行われた。授業中質問をする生徒の割合は微増で、言語活動を意図的に設定する授業が必要である。県指定の授業改善に取り組んだ。	教員が工夫して授業を進めていると考える生徒は多数いるのに、授業中質問をしている生徒は少ない。ブロック個人権教育研究大会で、自分の意見を発表する雰囲気づくりに学校全体で取り組んでいるのはよい。 基本的な話し方を学習し、訓練をする。さらに小・中連携をいかして5小学校共通にパターン化すれば効果的である。県指定「授業改善」推進校事業を受けて、学校全体で授業改善に取り組んでいる姿勢は大切である。	学力向上検討委員会で本校の課題を見つけ、解決への実行プランを作成し、職員全体の方向性を整える。年間を通じて取り組むテーマを設定し、教科単位や学級・学年単位で取り組む。検討時期を早めて方向性を早く整えていくことが課題である。 県指定事業で取り組んだ「みんなでやれることをみんなでやることから」の精神を活かす。
		①-1 教員が工夫して授業を進めていると考える生徒 ①-2 授業中に質問をしている生徒 ② 授業力の向上に努めている教員 ③-1 家庭学習を行っている生徒 ③-2 家庭学習の時間増の工夫をしている教員	①-1 A ①-2 C ② A ③-1 B ③-2 B				
		活動計画	活動計画の実施状況	①-1 学習の手引きを継続使用し、効率的な学習指導を実施 ①-2 TT 指導による基礎的基本的な内容の定着 ②-1 メンター制等による教師力向上研修に年6回取り組んだ。 ②-2 1、2年生で、帯単元による朝読書を実施。PTAによる読み聞かせ活動も行った。 ③-1 宿題等の工夫と点検、長期休業中の課題とそれに基づく確認テストを実施 ③-2 放課後の補充学習を計画的に実施			
		①-1 学力向上検討委員会における実行プランの作成 ①-2 TT 指導の充実 ②-1 教科サポートチームの活動を通して研修に取り組む。 ②-2 朝読書の推進 ③-1 宿題等の工夫及びその点検 ③-2 放課後学習の実施	①-1 学習の手引きを継続使用し、効率的な学習指導を実施 ①-2 TT 指導による基礎的基本的な内容の定着 ②-1 メンター制等による教師力向上研修に年6回取り組んだ。 ②-2 1、2年生で、帯単元による朝読書を実施。PTAによる読み聞かせ活動も行った。 ③-1 宿題等の工夫と点検、長期休業中の課題とそれに基づく確認テストを実施 ③-2 放課後の補充学習を計画的に実施				
3 生徒指導・交通指導	① 基本的な生活習慣の定着 ②-1 生徒理解と相談体制の充実 ②-2 いじめ防止対策 ③ 交通指導の充実	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A	(所見) 生徒がいじめを相談できる環境をつくり「いじめは許さない」という意識を高め、いじめの早期発見・早期対応に取り組んだ。一年生の交通安全教室を開催し集会や学活を通して常時指導を行っている。	SNSトラブルの急増ということをよく耳にする。中学校にいたる間だけの人間関係を想定した指導でなく、様々な場を考え、継続して指導する必要がある。 地域から自転車の登下校状況について情報が寄せられている。概ねよい状況だが、ヘルメットの着用、並進等生徒の安全安心のため、引き続き指導してほしい。	生徒とともに活動する機会を教職員が大切にすること。本年度も一年生対象の交通安全教室をできるだけ早期に実施する。さらに安全教育担当を中心に集会や学活等を利用し、安全指導をする機会を積極的に設ける。PTA 本部役員を中心に朝の登校状況の巡視があり生徒の登校環境を知ってもらうよい機会となっている。
		① 遅刻せずに登校する生徒 ②-1 教員が適切に指導しているとする保護者 ②-2 自他ともに大切に指導に取り組む教員 ②-3 いじめ問題等相談しやすいとする生徒 ③-1 交通ルールを守っている生徒 ③-2 交通ルールを指導する教員	① A ②-1 A ②-2 B ②-3 B ③-1 A ③-2 B				
		活動計画	活動計画の実施状況	① 朝と休み時間の巡視を実施 ②-1 SC を中心とした相談活動と随時家庭訪問実施 適応指導教室と連携 ②-2 学校いじめ防止基本方針に基づくいじめ問題等対策委員会において年5回アンケート調査を実施した。 ③ 交通安全教室と登下校時の立哨指導を適宜実施した。			
		① チャイム着席・交通立哨指導 ②-1 相談体制の確立 ②-2 いじめ問題等対策委員会を活かした校内体制の確立 ③ 計画的な安全教育への取り組み	① 朝と休み時間の巡視を実施 ②-1 SC を中心とした相談活動と随時家庭訪問実施 適応指導教室と連携 ②-2 学校いじめ防止基本方針に基づくいじめ問題等対策委員会において年5回アンケート調査を実施した。 ③ 交通安全教室と登下校時の立哨指導を適宜実施した。				
4 保健指導・給食指導・環境美化	①保健指導の徹底 ②給食指導の徹底 ③環境美化の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A	(所見) 基本的な生活習慣の定着ができています。全教職員で手洗い・咳エチケット等感染症対策の周知徹底に努めています。「保健だより」「食育だより」を発行し、生徒だけでなく保護者にも啓発を行っている。校舎内や広い校地にゴミの無い美しい環境が保たれている。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生徒の安全安心のためにできる対応を考えて行ってほしい。 PTA 本部役員を中心にトイレや階段に花が活けられ、メッセージが添えられている。その場の環境美化とともに心の美化になっていた。	基本的な生活習慣を身につける「知識・理解・実践できる力」を育成する。栄養教諭や養護教諭との連携を密にし、自己の心身の健康について考える行事や授業を継続する。
		①-1 健康に気をつけている生徒 ①-2 健康に生活できるよう指導する教員 ②-1 食生活に関心を持っている生徒 ②-2 食生活を見直すよう指導する教員 ③-1 清掃活動に積極的な生徒 ③-2 清掃指導ができていると考える教員	①-1 B ①-2 A ②-1 B ②-2 B ③-1 A ③-2 A				
		活動計画	活動計画の実施状況	① 毎月の「保健だより」発行と学校保健委員会の開催 ②-1 全教職員で給食時間の指導と「食育タイム」の充実 ②-2 食育授業の実施と「食育だより」の発行 ③-1 清掃担当者による清掃強化週間の立案と全教職員による清掃指導を実施した。			
		① 保健指導計画の立案と学校保健委員会の開催 ② 給食指導計画の立案と給食時間の指導 ③-1 清掃担当者による清掃計画の立案と清掃指導	① 毎月の「保健だより」発行と学校保健委員会の開催 ②-1 全教職員で給食時間の指導と「食育タイム」の充実 ②-2 食育授業の実施と「食育だより」の発行 ③-1 清掃担当者による清掃強化週間の立案と全教職員による清掃指導を実施した。				

南部中学校総括評価表 (No2)

令和元年度末

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
5図書教育・キャリア教育・生徒会活動	①図書館の積極的な活用 ②進路指導の充実 ③生徒会活動の活性化	評価指標	評価指標の達成度	総合評定	図書委員会活動を活性化し、図書室の本の充実に継続して努める。 PTA 本部役員を中心に絵本の読み聞かせ活動が行われ、生徒の関心を高めていた。生徒自身の読み聞かせ活動に繋がっていきたい。 生徒会本部役員が校内や地域のリーダー的立場に成長してきているので、活動のより一層の活性化をめざす。
		①-1授業で図書室を活用する教員 ①-2年間10冊以上本を読む生徒 ②-1将来の職業に関心がある生徒 ②-2継続的な進路指導をしている教員 ③-1生徒会行事等に積極的な生徒 ③-2専門委員会が充実していると考える教員	①-1 C ①-2 C ②-1 B ②-2 A ③-1 B ③-2 B	(評定) B	
		①-1「図書室カレンダー」の発行とお薦めの本の紹介 ①-2図書室利用を促進する授業研究を実施 ②3年間を見通した進路指導計画の立案と職場体験活動の立案・実施 ③生徒会活動の見直し 「あいさつ運動」の実施や地域防災活動に参加	①-1 図書室運営が計画的に工夫して行われている。 ①-2 県図書教育研究大会で「どう図書館を活かしていくか」について成果を発表した。 ②発達段階に応じた指導計画にそって実施。3年は春に職場体験活動を実施した。 ③-1 月1回専門員会で自主的な活動を実施 ③-2 生徒会活動の主力となる本部役員が全国子どもいじめ防止サミットに参加するなど校内だけでなく地域・県のリーダー的立場に成長してきた。	(所見) 生徒会活動に積極的に取り組む本部役員生徒が校内・地域のリーダーとして自覚的な取組を始めている。専門委員会ですらに活動が広がるよう工夫をしたい。	
6人権教育・道徳教育・特別支援教育	①人権教育の推進 ②道徳教育の推進 ③特別支援教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定)	「引きこもり」の状況が、長く続くことが、大きな社会問題になっている。特に学齢期の不登校がそのまま続いている事例も多い。生活力を高めるために20年先30年先を見据え、生徒を育てていくことが大切である。特別支援学級の生徒への支援も社会に目を向けていけるようになってほしい。
		①-1学校に来るのが楽しい生徒 ①-2温かい言葉がけをしている教員 ② 私には良いところがあると考える生徒 ③-1友だちの良さを見つけている生徒 ③-2支援の必要な生徒を把握している教員	①-1 B ①-2 A ② B ③-1 A ③-2 A	A	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 自己肯定感をいっそう高められるよう、教師が生徒に自信を持たせたり自分の良さに気づいたりする活動を継続的に取り入れている。	
		①人権教育主事を中心に人権教育の立案 ②道徳教育推進教師を中心に活動計画を立案 ③2入学前を含めて年間4～5回の教育相談を実施して、特別な支援を必要とする生徒のニーズに応じた支援に努める。	①人権教育主事を中心に活動計画に基づいて活動した。市ブロック別研究大会での会場校として全クラス公開授業を実施し、活発な発言・交流ができたことが大きな収穫であった。 ②道徳教育推進教師を中心に学年の活動計画に基づいて研修を実施。学年ごとの授業研究会を活発に行われた。 ③校区内小学校支援学級との連携を強化し、参観授業ならびに個別のニーズや支援についての面談を実施した。		

「評定」の基準 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:達成できなかった